

販売用資料

2016.12

日本厳選中小型株ファンド

追加型投信 / 国内 / 株式

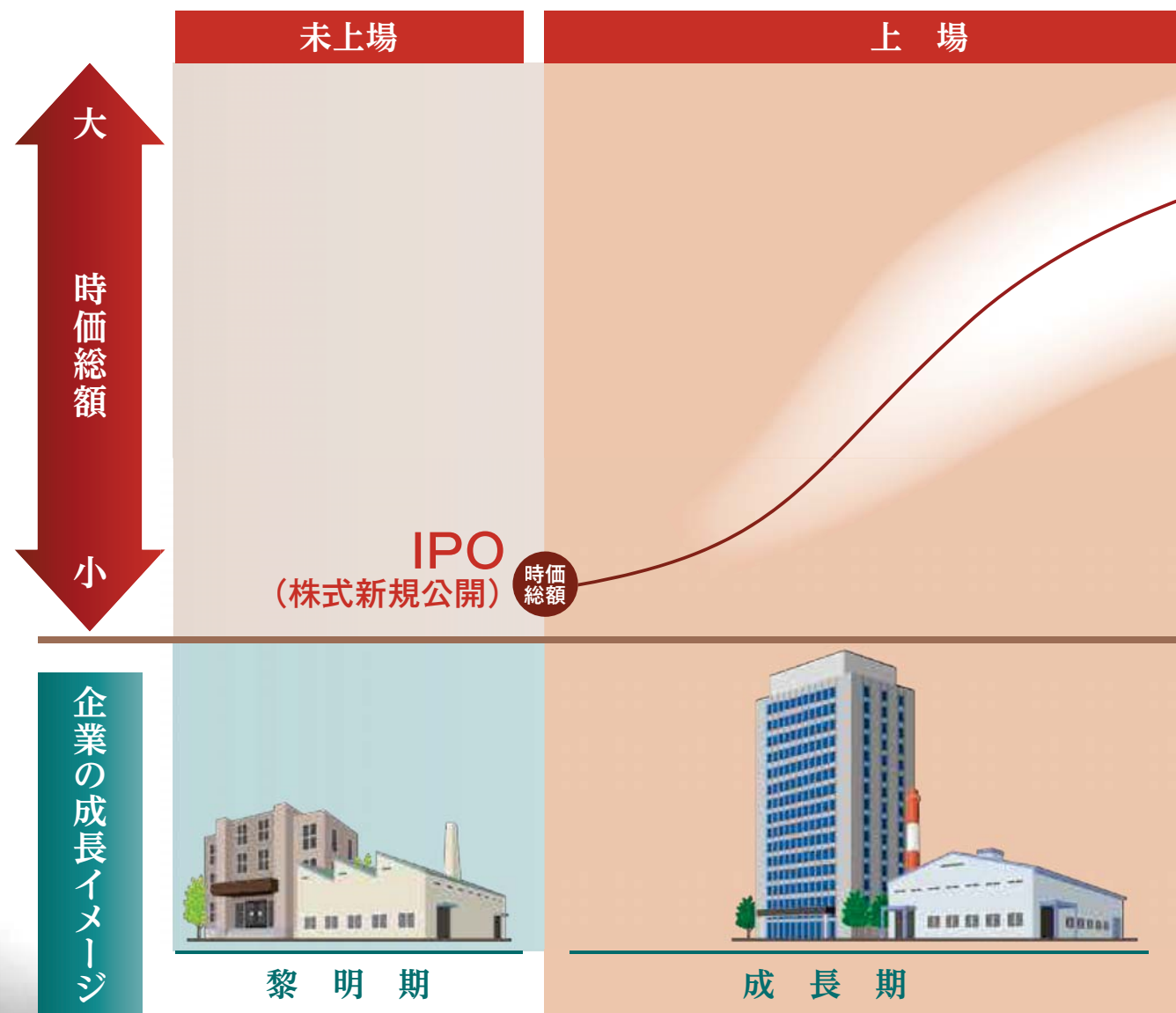




企業の成長サイクルと投資イメージ

企業の成長サイクルの中で、中小型から大型株に成長株式市場における存在感も急激に拡大する傾向があり当ファンドでは、成長期から拡大期の企業の株式にも

企業の成長



企業の成長イメージ

する段階は、成長率が最も高く、投資します。

イメージ図



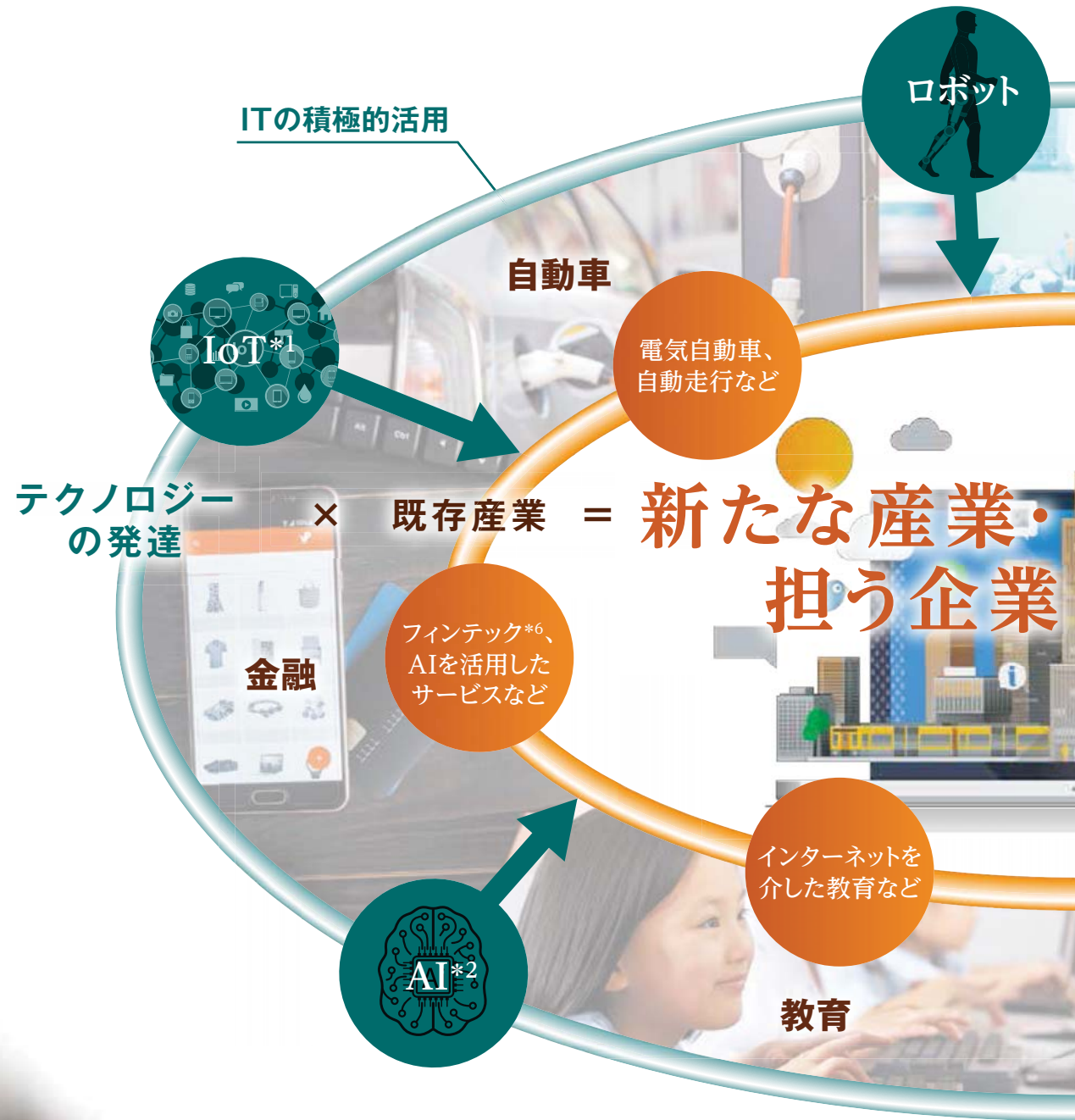
上記は一般的な企業の成長イメージであり、

実際にはこれと異なる場合があります。



イノベーションが創出する新たな

既存産業にテクノロジーが融合することにより、新たな台頭することが期待されます。当ファンドでは、時代を経営戦略やビジネスモデルによって新たな顧客や市場



出所:各種資料をもとにアセットマネジメントOne作成

- *1 「モノのインターネット」といわれ、あらゆるものがインターネットでつながって相互に情報交換をする仕組み。
 - *2 人間の知能を持つ機能を備えたコンピューターやシステム。
 - *3 インターネットのサーバー上でデータなどを保存して、管理・活用するサービス。
 - *4 従来のシステムでは処理することが困難な膨大・複雑なデータ群。
 - *5 AR(拡張現実)は、現実世界に仮想世界を反映させる技術。一方、VR(仮想現実)は、仮想世界を現実のように体験できる技術。
 - *6 金融(Finance)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた造語で、テクノロジーを使った新たな金融サービス。
 - *7 通信機能を備えた電力メーター。家庭、オフィス、工場などの電力の利用状況をリアルタイムに把握することにより、需要予測や節電が可能。
- 上記は、イメージ図でありすべてを説明しているものではありません。

投資機会

産業・サービスを担う企業が超えて未来につながるテーマを見極め、を創造できると考えられる企業に注目します。



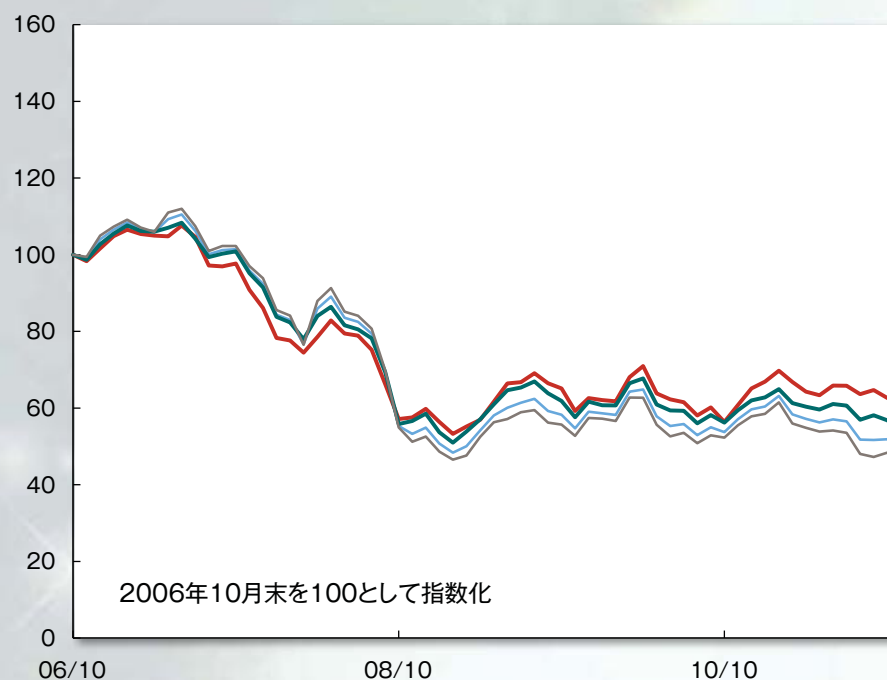
体験できる技術。金融サービス。モバイル決済やオンライン送金といった決済分野を中心に、コストの低さや利便性の高さが特徴。により、需要予測や節電が可能。

また、投資対象は上記の例示に関連するものに限定されません。

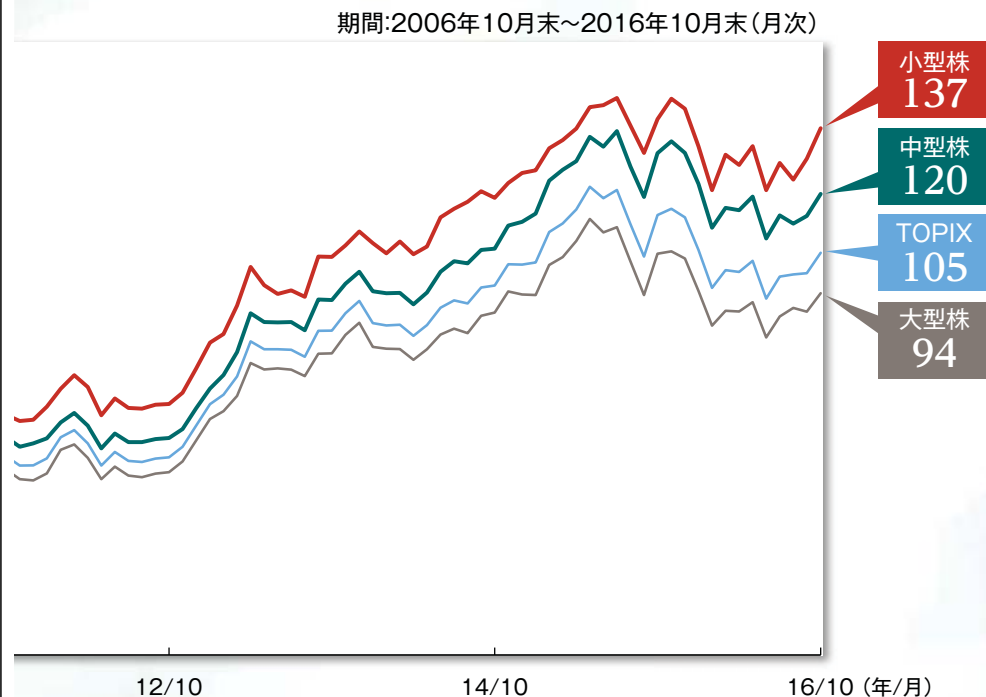
良好なパフォーマンス

中小型株は、大型株に比べ相対的に高いパフォーマンスを維持してきました。中小型株の魅力が増すと考えます。

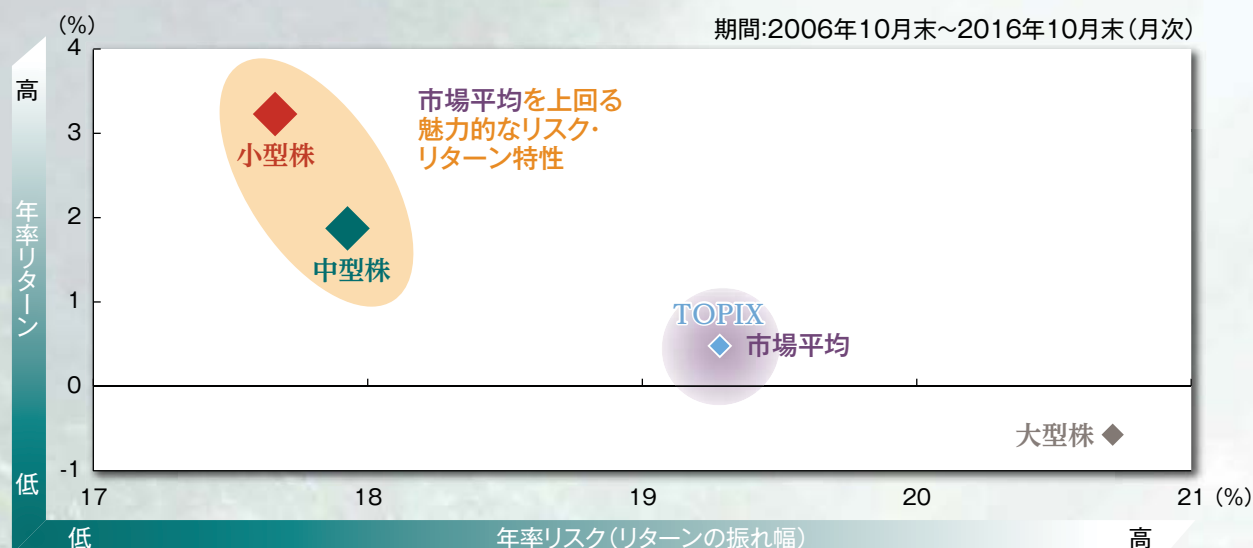
TOPIXおよび大型・中型・



小型株のパフォーマンス推移



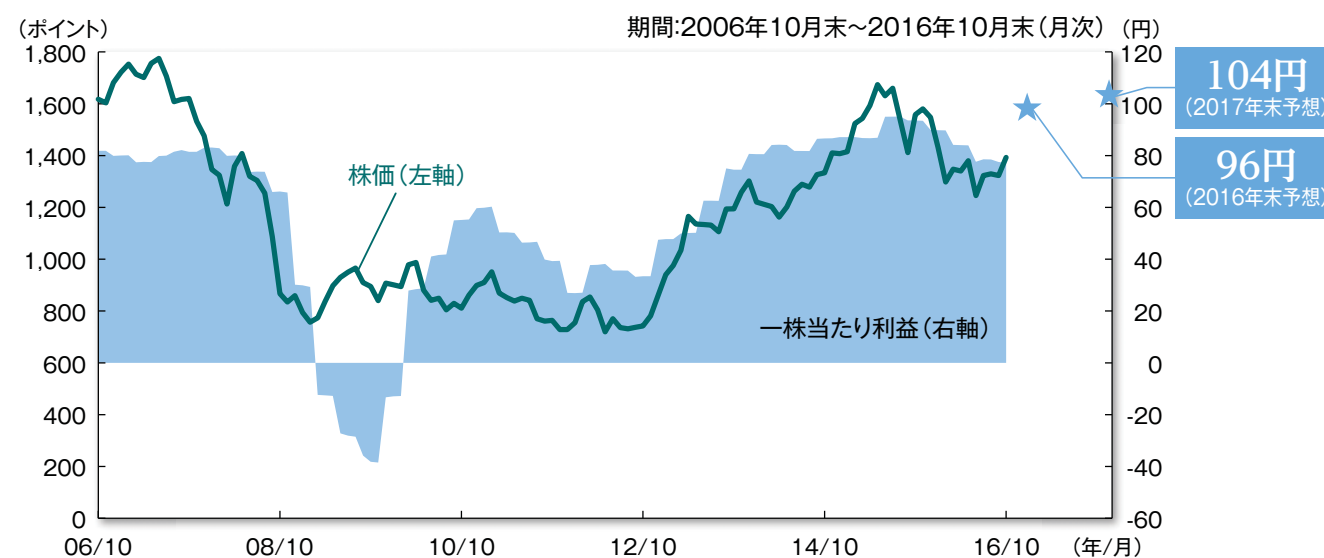
TOPIXおよび大型・中型・小型株のリスク・リターン比較



リスクは、計算期間中の平均的なリターンからどの程度かい離れたか、リターンの振れ幅の度合いを示しています。リスク・リターンの関係は特定の指数の過去の一定の期間のデータに基づいて表示したものです。

TOPIX(東証株価指数)、大型株: TOPIX 100(TOPIX算出対象のうち、時価総額、流動性の特に高い100銘柄)、中型株: TOPIX Mid400(TOPIXを除いた銘柄)の配当込み指数を使用しています。出所: ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

(ご参考)日本企業の業績と株価の動向



一株当たり利益と株価は、TOPIXを使用。★は2016年11月1日時点のブルームバーグの一株当たり利益の予想値。出所: ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

100について、時価総額、流動性の特に高い400銘柄)、小型株: TOPIX Small(TOPIX算出対象から、TOPIX 100、TOPIX Mid400の構成銘柄

上記は過去の情報または作成時点の見解であり、

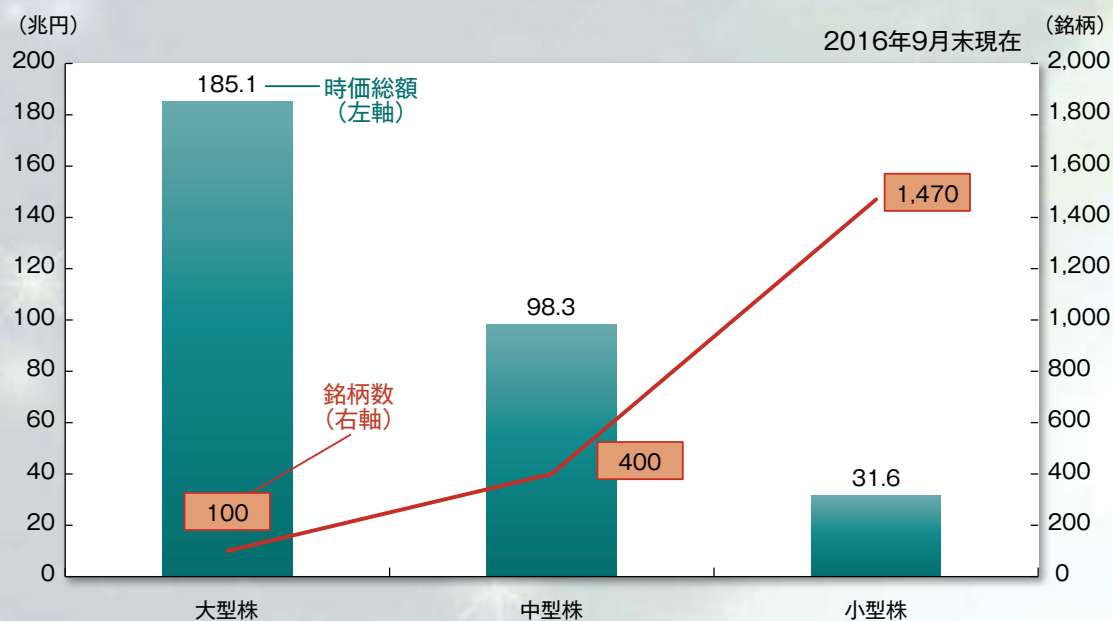
当資料は、アセットマネジメントOneが信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の完全性、正確性

将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

を保証するものではありません。当資料の内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

中小型株の時価総額合計は大型株の7割程度ですが、銘柄数では大型株の約19倍と豊富な潜在的投資機会が中小型株市場の魅力の1つです。

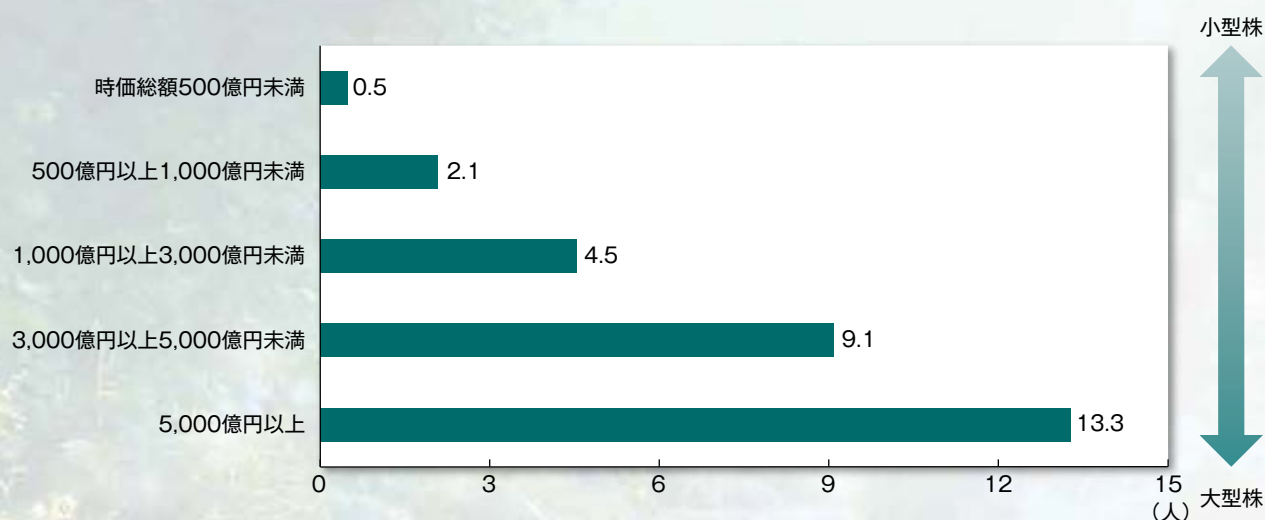
国内株式市場の各分類の時価総額と銘柄数



大型株はTOPIX 100、中型株はTOPIX Mid400、小型株はTOPIX Smallを使用しています。
出所:東京証券取引所のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資機会は豊富にあるものの、中小型株は、大型株に比べてアナリストが調査対象としている銘柄が少ないため、卓越した製品・技術・サービスを持つ企業が発掘されずに放置されている可能性が考えられます。

1社あたりの調査アナリストの平均カバー人数



※平均カバー人数は、2016年9月末時点の東証1部の構成銘柄に基づき算出(2016年10月27日)しています。
出所:Quick、ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、アセットマネジメントOneが信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の完全性、正確性を保証するものではありません。
当資料の内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

1 主として、わが国の中小型株式に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目的として、積極的な運用を行います。

- わが国の金融商品取引所に上場する株式(上場予定を含みます。)の中から、中小型株式を主要投資対象とします。
- 株式の組入比率は、原則として高位を維持しますが、相場急変時等には一時的に実質株式組入比率(*)を引き下げることがあります。

(*)実質株式組入比率とは、現物株式と株価指数先物取引を合計した組入比率をいいます。

2 銘柄選定にあたっては、主として経営戦略やビジネスモデルによって新たな顧客や市場を創造できると考えられる企業に着目します。

- 徹底した企業分析、銘柄調査に基づき、企業の成長力、競争力、収益力、経営力、株価等を分析し、ファンダメンタルズとバリュエーションの観点から、組入候補銘柄群を選定します。

3 ポートフォリオの構築にあたっては、組入候補銘柄群の中から、今後高い利益成長が期待できると考えられる銘柄を厳選して投資を行います。

- 業種配分などにとらわれず、ファンドマネジャーの総合的判断によって組入銘柄数および各銘柄の組入比率を決定します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

運用プロセス

わが国の全上場銘柄

STEP 1

■時価総額、流動性、信用力などの観点から、投資候補銘柄群をスクリーニング

中小型ユニバース^(注)

ファンドマネジャーの
独自調査銘柄

STEP 2

■主として経営戦略やビジネスモデルによって新たな顧客や市場を創造できると考えられる企業に着目
■徹底した企業分析、銘柄調査に基づき、企業の成長力、競争力、収益力、経営力、株価等を分析し、ファンダメンタルズとバリュエーションの観点から、組入候補銘柄群を選定

組入候補銘柄群

STEP 3

■業種配分などにとらわれず、今後高い利益成長が期待できると考えられる銘柄を厳選し、組入銘柄数・組入比率を決定

ポートフォリオ
(50銘柄程度)

(注) 上記以外のユニバースの銘柄にも投資する場合があります。
※株式の組入比率は、原則として高位を維持しますが、相場急変時等には一時的に実質株式組入比率(*)を引き下げることがあります。
(*) 実質株式組入比率とは、現物株式と株価指数先物取引を合計した組入比率をいいます。

※2016年10月末時点のものであり、今後変更される可能性があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当ファンドの運用について

当ファンドの運用はアセットマネジメントOneが行います。

アセットマネジメントOneは、DIAMアセットマネジメント、みずほ投信投資顧問、新光投信およびみずほ信託銀行(資産運用部門)の4社が統合し、2016年10月に新会社として発足しました。

日本で最大の運用資産規模を誇る資産運用会社で、国内外のお客さまからお預かりしている運用資産総額は50兆円超にのぼります。

国内系資産運用会社の運用資産残高ランキング

順位	社名	運用資産残高(単位:兆円)
1	アセットマネジメントOne	51.5(38.6)
2	野村アセットマネジメント	39.2(13.0)
3	大和証券投資信託委託	14.9(0.5)
4	日興アセットマネジメント	14.9(3.9)
5	三菱UFJ国際投信	12.6(0.4)
6	三井住友アセットマネジメント	12.0(6.5)
7	ニッセイアセットマネジメント	9.8(4.3)
8	三井住友トラスト・アセットマネジメント	8.2(0.0)
9	大和住銀投信投資顧問	6.1(2.8)
10	東京海上アセットマネジメント	6.0(4.2)

※2016年3月末時点、時価ベース。
※信託銀行を除きます。
※括弧内の数値は運用資産残高のうち、年金運用資産残高等を表しています。
※アセットマネジメントOneは、統合各社の2016年3月末時点の合算値。旧みずほ信託銀行の資産運用部門の年金信託等の運用資産残高を含んでいます。
出所:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会のデータをもとにアセットマネジメントOne作成

アセットマネジメントOneのグローバルネットワーク



※2016年10月1日時点



参考ポートフォリオのご紹介 (2016年

参考ポートフォリオは、これから運用を開始するファンドのイメージをつかんでいただくためのものです。参考ポートフォリオは、当ファンドの運用方針に基づいて2016年10月末時点で作成したものです。実際のポートフォリオや運用実績ではありませんのであくまでご参考としてお考えください。特定の銘柄の推奨を目的としたものではありません。また将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

組入上位10業種

		2016年10月末現在
順位	業種	組入比率 (%)
1	サービス業	18.5
2	情報・通信業	10.7
3	電気機器	10.0
4	精密機器	9.0
5	その他製品	7.6
6	機械	5.6
7	食料品	5.5
8	輸送用機器	5.0
9	小売業	4.1
10	化学	4.0

※組入比率は、参考ポートフォリオ全体を100%として算出しています。
※業種は東証33業種分類によるものです。

個別銘柄のご紹介

ぐるなび (業種: サービス業)

【事業内容】

飲食店情報検索サイト「ぐるなび」を運営。レストラン予約システムなど飲食店のIT化支援サービスも提供。日本国内のレストラン情報を多言語で提供。

【評価のポイント】

2015年に本格的に開始した「ぐるなび外国語版」を活用した地方創生の取り組みに力を入れています。一例として、トリップアドバイザーの宿泊予約サイトと連携して「ぐるなび外国語版」で海外からの宿泊ユーザーを日本の飲食店に送客したり、外国語対応のメニューをタブレットで表示することで、飲食店の接客において訪日外国人との円滑なコミュニケーションを可能にするサービスを提供しています。

株価推移



出所: ブルームバーグのデータ、各種資料をもとにアセットマネジメントOne作成

上記の個別銘柄はあくまでも一例であり、当ファンドへの組入れを示唆・保証する

上記は過去の情報であり、将来の運用

当資料は、アセットマネジメントOneが信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の完全性、正確性

10月末現在)

ヨネックス (業種: その他製品)

【事業内容】

バドミントンやテニス用品などの製造および販売を行う。海外売上比率は4割以上。バドミントンのラケットは世界的ブランド。

【評価のポイント】

世界のバドミントン市場でのブランド力と、大きく成長している中国市場への本格的な展開に注目しています。2015年春から、中国において代理店販売から直接販売に切り替え、自社で直接マーケティングを開始しています。中国の英雄的なバドミントン・プレーヤーと契約し、上海から開始した広告宣伝活動を北京、広州、そして西安など内陸部にも展開することを計画しています。今後は、中国でのバドミントン人口の拡大および中国市場でのシェア拡大が期待できると考えています。

株価推移



出所: ブルームバーグのデータ、各種資料をもとにアセットマネジメントOne作成

東祥 (業種: サービス業)

【事業内容】

愛知県発祥のスポーツクラブ「ホリデイスportsクラブ」を運営。ホテル、賃貸マンションも運営。ローコストオペレーション/低価格を武器に、ライトユーザー層を取り込んでいく戦略。

【評価のポイント】

ITを積極的に活用したサービスなどが奏功し、スポーツクラブ事業は安定的に成長しています。体成分を分析する装置RISOBO(リソボ)で測定したデータに基づき、その結果を次の運動メニューに反映させることで、ユーザーが理想とする体作りを支援するサービスがその一例です。このような取り組みにより、アクティブ会員数が増加(退会者が減少)することで、有料会員数が加速度的に積み上がっていくことを期待しています。

株価推移



出所: ブルームバーグのデータ、各種資料をもとにアセットマネジメントOne作成

ものではありません。また掲載した個別銘柄の売買を推奨するものではありません。

成果等を示唆・保証するものではありません。

を保証するものではありません。当資料の内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

ファンドのリスク

当ファンドの基準価額は、ファンドに組入れられる有価証券の値動き等により影響を受けますが、運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、下記の変動要因により基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

株価変動リスク	当ファンドは、株式に投資をします。株式市場の変動により基準価額が上下します。また、中小型株式は株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動する場合があります。当ファンドの基準価額に影響を与える可能性があります。
個別銘柄選択リスク	当ファンドは、個別銘柄の選択による投資を行います。株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でも当ファンドの基準価額は下がる場合があります。
流動性リスク	当ファンドにおいて有価証券等を売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなる場合があります。基準価額に影響をおよぼす可能性があります。
信用リスク	当ファンドが投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、株式の価格が下落したりその価値がなくなることがあり、基準価額が下がる要因となります。

分配方針

●年1回の決算日(毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日))において、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

分配金に関する留意点

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

指数の著作権等

東証株価指数(TOPIX)、TOPIX 100、TOPIX Mid400、TOPIX Smallは、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託は、
- (1) 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 - (2) 購入金額については、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 - (3) 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。
- 当資料はアセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。当ファンドのお申込みの際は、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

お申込みメモ(ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。)

- **購入の申込期間**
当初申込期間: 2016年12月1日~2016年12月8日
継続申込期間: 2016年12月9日以降
 - **購入単位** (当初元本1口=1円)
販売会社が定める単位
※「分配金受取コース」および「分配金自動けいぞく投資コース」によるお申込みが可能です。お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみのお取扱いとなります。購入単位および取扱コースについては、販売会社にお問い合わせください。
 - **購入価額**
当初申込期間: 1口=1円
継続申込期間: 購入申込日の基準価額
 - **換金単位**
販売会社が定める単位
 - **換金価額**
換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
 - **換金代金**
原則として換金申込日から起算して5営業日目からお支払いします。
 - **申込制限**
大口の換金請求に制限を設ける場合や、購入、換金の受付を中止する場合等があります。
 - **お客さまにご負担いただく手数料等について**
下記手数料等の合計額等については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
 - **ご購入時**
 - **購入時手数料**
購入価額に3.24%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。
※くわしくは販売会社にお問い合わせください。
 - **ご換金時**
 - **換金手数料**
ありません。
 - **信託財産留保額**
換金申込日の基準価額に0.3%を乗じて得た額とします。
 - **保有期間中(信託財産から間接的にご負担いただきます。)**
 - **運用管理費用(信託報酬)**
信託財産の純資産総額に対して年率1.6632%(税抜1.54%)を日々ご負担いただきます。
 - **その他費用・手数料**
組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、監査費用等が信託財産から支払われます。(その他費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。)
- ※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

委託会社その他関係法人の概要

- **委託会社** アセットマネジメントOne株式会社
信託財産の運用指図等を行います。
- **受託会社** みずほ信託銀行株式会社
信託財産の保管・管理業務等を行います。なお、受託会社は信託事務の一部につき資産管理サービス信託銀行株式会社に委託することができます。
- **販売会社** 募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。

照会先

アセットマネジメントOne株式会社 ・コールセンター 0120-104-694 受付時間: 営業日の午前9時から午後5時
・ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>



お申込みに当たっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

■ 投資信託説明書(目論見書)のご請求・お申込みは

■ 設定・運用は

丸三証券

Asset Management One | **アセットマネジメントOne**

商号等 / 丸三証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号
加入協会 / 日本証券業協会

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会 / 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会